

第4回あり方検討委員会

小グループ資料〈医師等グループ〉

令和元年6月



第3回あり方検討委員会までの意見（主なもの）

<病院の機能役割について>

- ✦ 当院は、地域の急性期医療の中核的な病院である。
- ✦ 現状の急性期の強みを生かしつつ、不足している診療部門の対応が必要となる。
- ✦ 医師の働きやすい病院づくりを検討し、医師の招聘を行う必要がある。
- ✦ 高齢者の増加に伴い、整形外科疾患がニーズの高い診療部門となるため、強化して欲しい。

1. 5疾病について

- ✦ がん診療は、周辺医療機関との機能分化を検討することが必要である。
- ✦ 循環器疾患は早急な処置が必要であるため、救急対応は必須であり、自治体病院として継続することが求められる。
- ✦ 糖尿病の重症化予防の取り組みは継続して欲しい。

2. 5事業について

- ✦ 救急医療の継続を望む。医師会での当番医制も含め、医療圏の救急医療体制を検討する必要がある。
- ✦ 当院の特色である救急センターの強化と共に、循環器疾患への対応がわかりやすいことが望ましい。
- ✦ 災害時にも医療が提供できる体制を整える必要がある。災害時の医師・スタッフの確保が課題となる。
- ✦ 現在、周産期医療は周辺病院・診療所・助産所での対応が可能。当院で対応しないことは致し方ない。
- ✦ 小児救急対応の強化を希望する。小児科医師の招聘に取り組む必要がある。
- ✦ 当地域には小児精神・小児発達障害の専門医が在籍しており、協力して小児発達障害の診療拠点を作っていきたい。

3. 予防医療について

- ✦ 現状、市町村からは特定健診、がん検診、人間ドック等の多くを当院へ依頼している。今後も予防医療の取り組みは必要である。

4. 在宅医療について

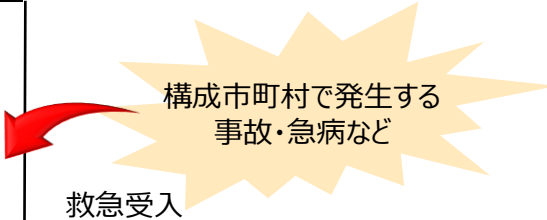
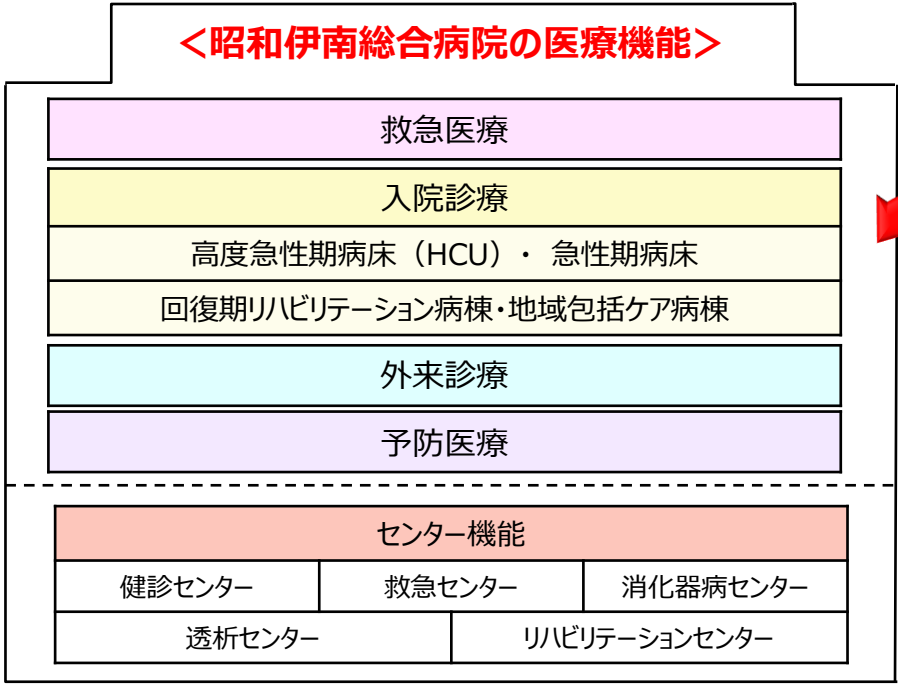
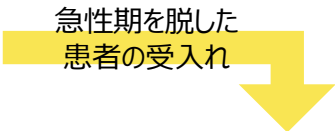
- ✦ 構成市町村では、民間主体で在宅医療を行っており、入院受け入れ先として当院が必要である。
- ✦ 医療と福祉の連携は重要である。福祉事業との連携や重複する分野の効率的な運用をお互いに目指す必要がある。



昭和伊南総合病院 <地域の中核病院としての役割>

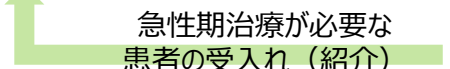
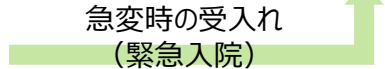
- ◆ 救急医療を含む急性期医療を維持し、地域完結型医療を目指す。
- ◆ 在宅復帰支援・リハビリテーションなどの回復期機能を担い、住民の自立した生活を支援する。
- ◆ 医療連携を推進し、地域医療の向上に貢献する。

三次医療機関
(大学病院・伊那中央
病院など)



高度医療が必要な
患者の紹介

療養に移行できる
患者の退院調整・
在宅復帰支援



介護施設

在宅

地域医療機関
(かかりつけ医)

2

政策医療への対応方針

(新) 昭和伊南総合病院

高度急性期

＜救急医療＞
2次救急患者の受入れ
救急センターの整備
整形外科疾患の対応強化

＜心疾患・脳血管疾患＞
24時間の救急対応の実施

一般急性期

＜がん＞
血液内科・消化器・肺・乳・泌尿器
など強化分野を重点的に対応

＜小児医療＞
一般・入院医療
発達障害の拠点病院

回復期

＜回復期＞
当院及び他地域での治療を受けた患者の在宅復帰支援

慢性期

＜在宅医療＞
療養患者の急変時の受入れ
訪問リハビリテーション・医療必要度の高い患者への訪問看護

＜その他＞

＜災害医療＞
災害時の医療体制の整備

＜予防医療＞
健診センターの整備
啓蒙活動の強化

＜糖尿病医療＞
透析センター整備
重症化予防強化

＜機能分化・連携＞



＜高度・先進医療＞
信州大学・
伊那中央病院

＜3次救急＞
伊那中央病院

＜周産期医療＞
伊那中央病院・
診療所

＜小児医療＞
信州大学
・伊那中央病院

＜精神医療＞
こころの医療センター駒ヶ根

＜在宅医療＞
(訪問診療・療養等)
診療所・療養病院・
介護福祉施設